

第11回「ことば」フォーラム
＜第2部＞ 第2会場

ことば探検・ことば発見

2002年8月28日(水)
熊本市国際交流会館 6階ホール

濱田 賢明(熊本県立鹿本高校)
馬場 貴子(熊本県立鹿本高校)
熊本県立鹿本高校の生徒
菅井英明(国立国語研究所)
イライザ・ミーカー(西合志町教育委員会)
ハビエル平八郎川邊スリタ
(YMCA国際センター)

後援:熊本県教育委員会 熊本市教育委員会
共催: NHK熊本放送局
独立行政法人 国立国語研究所

ことばビデオシリーズ『相手を理解する』を活用した高校の総合的な学習

(配布資料：p. 1～2)

杉戸 お待たせいたしました。ぴったり3時になりました。名札をお配りしておられた生徒さんが戻りました。これから「ことばフォーラム」の第2部の、ここは第2会場でございます。開催したいと思います。私は、改めまして、国立国語研究所の杉戸清樹と申します。今日の司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。受付でお取りいただいた資料の中に、この第2会場の資料が入っているので、話の大筋はこれに従って、ビデオを1本見ていただきます。ビデオの説明は、この資料でございます。このビデオをめくりまして、これも高等学校の総合的な学習の時間、あるいは国語の授業の中で使っただけそうなのということを、いろいろ御検討いただきたいということを考慮しております。御覧いただいた先生方には、このビデオを御覧になって、この先どんなことに使われそうであるのかといった方向から御意見を伺いたいと思います。大まかに、進め方を御説明いたします。5時までの2時間を予定しております。最初に、のちほど御紹介いたしますけれども、熊本県立鹿本高校のほうで、このビデオをあらかじめ、この7月の夏休み前ぐらいにお送りいたしまして、御覧いただきました。先生方にも御覧いただき、生徒さんにも見てもらいました。そしてアンケートもお願いいたしました。どんなことを感じたのか、どんなことに利用していただけたのかということ、あらかじめ検討してくださっています。このことについて、まず鹿本高校の校長先生の濱田先生からお話いただきます。続きまして、同じく鹿本高校の馬場貴子先生から、生徒さんたちと一緒にビデオを御覧になってアンケートなどを進めていただきましたけれども、そのことについて、御説明と御意見を頂きます。その後で、ビデオを御覧いただきます。ビデオは通して見ていただくと37分間の作品になっております。中は六つほどのユニット、短い話でまとまっておりますけれども、通して見ていただきます。そうこうするうちに1時間ぐらいかかると思います。ですから休憩なしで、この後、あらかじめ見てくださっている鹿本高校の生徒諸君から、いろいろな感想なり意見、これは面白かったとか、まずかったとかいうことだけでは、今日は話題にしないという約束であります。ここがまずかった、この先こういうところは、こういうふうにして欲しいと、そういう方向からの意見に絞って、いろんな意見を頂きたいと思っております。更に先ほどまでの第1部の最後に登場してくださっていた、イライザさん、ハビエルさんのお二人にもビデオを見てもらっておりますので、御意見を頂きたい、こんなふうにおすすめしたいと思っております。そしてその中で、これはどこまで準備できるか、分かりませんが、今日御覧になって、ビデオを御覧になってすぐの感想として、お集まりの先生方からも御意見を頂く時間をできるだけ設けたいと考えております。こんなふうに進めてまいります。今の資料の他にこういう冊子を2種類、鹿本高等学校から頂いております。こちらは鹿本高校の今年度の概要、これに関しては、のちほど濱田先生の

ほうから御紹介いただきますが、総合的な学習の時間の中でどんなことを考えるのかに関する、鹿本高校でお進めになった研究開発実施の報告、御手元にそろっておりますでしょうか。更にこういうアンケートを準備しておりますが、これは前会場の第1部についてのアンケートの他に、この第2会場のビデオについてのアンケートです。話を37分間ずっと見ていただく順番に答えてもらえるようになってますので、書きながら御覧いただく、あるいは最後に書いていただいてもけっこうでございますが、是非お願いいたします。都合4種類の資料がありますので御確認ください。最初にこちら側に座っていただいている先生方、生徒諸君を御紹介いたします。鹿本高等学校の校長の濱田賢明先生。同じく鹿本高等学校の教員の馬場貴子先生でいらっしゃいます。それから鹿本高校からは、英語コースの2年生、2年6組の5人の方に来ていただいております。信國宏和さん、北原明香さん、阪梨由希子さん、蛇塚美里さん、それからマレーシアからの留学生でいらっしゃいますリ・レイカさん、以上5人の英語コースの生徒諸君です。それから第1部で壇上に上がっていただきました、アメリカから来ていらっしゃる、イライザ・ミーカーさん、エクアドルから来た、お父様は熊本の御出身の方で、ハビエル平八郎川邊スリタさん、それから国語研究所の菅井英明も出席しております。以上です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは先ほど説明した流れの第1部ですが、御覧いただくビデオシリーズ、高校生、あるいはそれ以上の成人の人を対象にして、特に高校では、総合的な学習の時間で利用していただきたい、こんな願いを込めて作っております。そのことをめぐって、濱田先生のほうから20分ほどお話をお願いしたいと思います。

濱田 御紹介いただきました、鹿本高校の校長の濱田でございます。座ってやらせていただきますので、ひとつよろしく願いいたします。国立国語研究所から御依頼がございまして、実は総合的な学習の時間、高等学校の総合的な学習の時間で、この「ことばビデオ」が使えないかということがございました。実は高等学校は、皆さん方御存じのように、平成15年、来年度から正式に総合的な学習の時間が始まるわけでございます。今日は八代第五中の生徒諸君が来ておりましたが、小中学校はすでにもうカリキュラムの中に組み込んで実施をしております。ところが高等学校では、それを研究している学校でしか、現在、全国的に使えないということでございます。御依頼がございましたのは、どういうことかといいますと、文部科学省の教育課程課がございまして、その情報あたりから、うちに是非とも使ってもらえないかということで、お話があったんだろうと推測しております。若干うちの学校の状況をお話いたしますと、うちは、文部科学省から総合的な学習の時間の研究開発学校として、正式に指定を受けている学校でございます。平成11年から研究開発学校として、この総合的な学習の時間の研究開発といえますか、単元開発に踏み切りました。ですから、特別な扱いを受けて研究しているというふうに御理解いただきたいと思います。熊本県下では8校、指定をしまして、現在、

県教育センター，それから高校教育課のほうで指定をしたものがございますけれども，すべてうちの研究成果といいますか，中高の段階における研究成果を参考にしながら進めているといった状況でございます。それで，「ことばビデオ」とは直接関係がないんですが，うちの研究開発，単元開発がどういうところまで進んで，どういう状況なのかというのを，ちょっと先にお話しておけば，いわゆる高等学校の総合的な学習の時間のどんなところで，これが使えるのかということが，言えるのではないかと考えております。本校の状況ですが，概略ですけれども，鹿本高校は今年で創立 106 年目になります。旧制中学の流れをくむ学校でございます。1 学年の生徒数が 360 人，9 学級でございます。そのうち，全部普通科でございますが，普通科の中に，体育コースがクラスございます。それから，今日来ております生徒諸君が所属している，英語コースがございます。大学科，普通科の中のコースということでございます。二つとも 3 年間で 10 単位前後の専門教科・科目が履修できるというものでございます。卒業生の進路といたしましては，本校は大体 1 割が就職でございます。90%が進学でございます。緑のパンフレット（*配布資料）をお開けいただきますと，一番最後，見返しをちょっと見ていただきたいと思います。一番最後のページ，折返しがございますが，その一番右側に，最近の 4～5 年間の，国立大学進学から就職まで，進学状況，あるいは就職状況を書いております。話を続けると，平成 11 年 4 月に，文部科学省から研究開発の指定を受けまして着手をいたしました。昨年，ちょうど 3 年目になりまして，一通り第 1 学年から第 3 学年までの研究開発，単元開発が終了しまして，後から御覧に入れますが，昨年 10 月に研究発表を，全国発表を行いました。単一学校としては異例の 450 人という先生方においていただいて，盛大に行いました。今年はどうかといいますと，いわゆる名目指定，実質的な，いわゆる加配だとかあるいは文部科学省からの予算が付かない形で，研究開発学校の指定だけいただいているということでございます。いわゆる名目指定校ということになります。今年は大体全国から 150 校，学校訪問を受けておりまして，今皆さん方の御手元にお配りしております，白表紙の冊子『教育課程の研究開発』でございますが，これが今年の 3 月に文部科学省に 3 年間の研究成果として，提出した研究報告書でございます。ですから昨年の 10 月に研究発表いたしました黒本とは，ちょっと中身が違っております。黒本を更に充実させているものでございます。最終版でございます。来年の 2 月に，月刊「高校教育」の別冊シリーズで今のところ出版する予定でございます。参考にいただければというところです。総合的な学習の時間の単元開発を簡潔に御説明いたしますと，57 ページをちょっとお開けいただけますでしょうか。ここから総合的な学習の時間の単元開発手法ということがずっと書いてございますが，59 ページ，ちょっとお開けください。59 ページに本校における総合的な学習の時間というのは，どんな力をつけていくのかということを表にまとめてあります。59 ページでは，方法知を学びましょうと。60 ページでは，内容知，自己知，61 ページではパフォーマンスス

キル、この四つのポイントを、本校ではいわゆる単元開発の中で、各単元の中で力をつけていきたい項目として、挙げてあるわけでございます。いわゆる「知の総合化」ということを狙っているわけでございます。この知の総合化というのは、一体何かといいますと、先ほどお示ししましたように、ほとんどの生徒が、本校は進学をいたしますので、いわゆる進路学習というふうにお考えいただければと思っております。細かいことは割愛しますが、知の総合化といって、方法知、内容知、自己知、パフォーマンススキル、この四つのポイントですが、その用語の説明は 61 ページの表の下のほうに書いてございます。後からお読みいただきたいと思います。それではうちの総合的な学習の時間の、いわゆる単元はどういうふうになっているのか。66 ページをお開けいただきたいと思います。67 ページの表が見やすいでしょうか。1 年時は下のほうからまいりますと、アップルプログラムという単元があります。それから第 2 単元が成功への援助とバーチャル市役所、そしてその隣へいきまして、2 年生では知の方法論、リポート。そして第 2 単元がヤングドクタープラン。第 5 単元が 3 年生の未来への架け橋、ということでございます。簡単に言いますと、進路学習でございますので、生徒達のいわゆる自分の把握、そしてまた進路をどう定めていくかということで、こういうふうな単元開発をしたわけでございます。その具体的な説明につきましては、71 ページから書いてありますので、ここはまた後ほどお読みいただきたいと思います。特色といたしましては、本校は普通科でございますが、情報に非常に力を入れておりまして、すべてのクラスにパソコンが配置してあります。そして校内 LAN を設置しまして、インターネットをいつでも使えます。ですから生徒が自由に使えるパソコン数は 150 台を越えております。かなり金がかかりましたけれども、いろんなところでいわゆる情報スキルというものを高めて、いろんな情報を集めさせようということでございます。すでに第 1 単元のアップルプログラムの段階で、全生徒が、メールを送れること、そしてまたインターネットを操作できること、そこまでのスキルを高めます。最終的に未来への架け橋でホームページを作成できること、そこまで高めてまいります。その過程を通して自分を見つめ、世の中を見つめ、自分の進路を見つけていく、そういう考え方であります。それで、例えばバーチャル市役所あたりが非常に面白いわけございまして、もう今日来ている生徒諸君は、そこを経験しているわけですが、ちょっと 103 ページを開けてください。非常にユニークなものを 1 年生の後期の段階で展開しております。103 ページに、バーチャル市役所の模式図がありますが、すべての生徒をある市役所に所属させて、その下に表がありますが、健康福祉課から一番右の過疎化対策・住宅供給課まで、どこかの課に分かれるわけです。生徒の希望によっていろんなことを調べていくということをやります。そういうものも、用意しております。そういった 2 年生の単元をもう一つ見ていただきます。129 ページをお開けください。ここら辺には、いわゆる今日の「ことばフォーラム」の関係が出てくるのかなというふうに思っております。129 ページでございます。これが

2年生の後半、今日来ております生徒が、この2学期からこれに入ってまいります。このヤングドクタープランというのは、何をするかといいますと、いわゆる漠然としておりました自分の進路をどんどん突き詰めてまいります。例えば129ページの下に1番から4番まで、次のページ130ページに5番から10番までのセクションがございます。どこかに生徒が所属をしまして、そしてクラスを解体し、自由な討論、調査、研究をやっていきます。131ページに、いわゆる学部学科とそのテーマクラスとの関連性が書いてあります。つまりこの「ことばビデオ」をどこで使うことが出来るかといいますと、例えばの話ですが、1番の外国の人や文化、社会、こういうところに関心があるんだという生徒につきましては、こういうビデオが、使えるのかなと。あるいは先ほど飛ばして来ましたが、1年生の初期の段階でのアップルプログラム、これはリンゴ計画というんですが、何でもいいんです、紅茶なら紅茶、ここに水がございしますが、水でもいいんです。机なら机、時計なら時計、何でもいいんです。このテーマを決めて、徹底してそれを一つ追求していく。普通の調べ学習は中学校段階で終わりますので、調べ学習を越える、高等学校の調査というのは、一体どうやるのか。インターネットを駆使して調べていく。その段階でも、この「ことばフォーラム」が使えるわけです。ですから、導入期のテーマとして、国語の言語事項にあたりますけれども、そういうところで生徒に使わせることができるのかなというふうなことを考えております。こういった中で、普通、高等学校の授業では取りあげておりません、ブレインストーミングとかKJ法とかディベートとか、あるいはフィッシュボーンとかあるいはウェビング、こういった手法もふんだんに取り入れる。現在、例えば大手の会社辺りの人材開発、ああいう人事課辺りが能力開発に使っている手法というものを、ふんだんにこの中に入れているんです。そういうものをつぎ込んで、授業の中で使っていくことができればというふうに考えておりますが、なかなかそこまではいかないわけでございます。本当に概略でございしますが、1年生から2年生にかけて、うちの総合的な学習の時間では、極端に言えばどの单元でも、この「ことばビデオ」を使うことができるかなという感じがしておるわけでございます。例えば先ほど言いましたけれども、1年生の最初の単元のアップルプログラムの導入で使いまして、国語Iの言語事項の授業と関連させながら、言語に関する興味関心を高めるといったところでも使えるのかなというようなことも考えております。あるいは今開いていただいております、2年後半のヤングドクタープラン、先程御説明しました、(1)の外国の人や文化、社会に関心あり、あるいは学部でいきますと文学部の、更に絞っていきまると言語学というところまで絞り込めるのかなということでございます。皆様方に成果を紹介してみますと、昨年全国発表のときに、生徒に「発表を募るよ」と言ったところが、ある3年生が一人ぱっと手を挙げた。「やってみるのか」「はい、やってみます」。その子は、いわゆる教育学をやりたいという生徒でございました。何をやるのかということで、私も面接したわけですが、いわゆる総合的な学習の時間を

専門的にやりたい。自分のパソコンでホームページも作って、パフォーマンスをやるという。大学進学も教育大と決めている。もうターゲットを絞っているわけですね。すべて絞り込んでいるわけです。そして「よしわかった。校長室で練習するか」「練習します」。その生徒が作ったパソコンのホームページを大学のAO入試でプレゼンテーションするという。「よかった、きっと合格するから自信もって行け」と。で合格しました。そういうことで、いわゆるうちのパソコンを使って、あるいはインターネットを使った学習、そこまで絞り込む。ですから、例えば今日のビデオを見ながら、言語、あるいは言語学に興味を持って、そこまで絞り込んでいく生徒も出てくるのかなという感じがいたすわけでございます。今日来ております英語コースの生徒諸君は、3年になりますと、日常会話はほとんど大丈夫になります。そこまで高まってまいります。今日は留学生も来ております。そういった中で、英語コースの生徒諸君にこのビデオを見てもらうのがよかろうと判断しました。昨日もまとめをやったんですが、敏感にいろんなところを見てください。昨日は私のほうから「ここをこう解決したら、もっとこのビデオがよくなるよ、という観点でお話したほうがいいんじゃないの」ということを言っております。少し辛口のところが出てくるとは思いますけれども、そういうところをポイントとしてお聞きいただければということでございます。以上です。

杉戸 ありがとうございます。引き続きまして、この1学期の夏休み前にビデオをお送りして御覧いただきました。そしてその辛口の批評に至るいろいろな意見の交換をしてもらいました。その結果について、馬場先生のほうからお答えいただきたいと思います。

馬場 ビデオを見たのは鹿本高校1年普通科の英語コースのクラスで、このクラスは男子12名、女子は26名の38名にマレーシアからの留学生、リ・レイカさんを迎えて39名です。クラス替えがない3年間同じメンバー、私のほうも去年から持ち上がりですので、自由に意見を発表したり、率直に意見が言えるクラスだと思います。中学生のときにホームステイをした経験のある生徒、若しくはホームステイで外国人を受け入れた経験がある生徒が非常に多かったこともありまして、言葉に対しては、興味・関心のある子が多いです。また高校1年の春休みにオーストラリア、アメリカのほうに短期のホームステイを経験した生徒が10名おりまして、また英語を勉強しようとか、文化に興味を持ったというところに、マレーシアからの留学生を迎えてますます頑張ろうかなという雰囲気になっているのではないかと思います。そこに、夏休み前にビデオを見てくれという御依頼がありまして、見せました。これから見るんですけれども、ビデオの最初の感想としましては、第6話まであるんですけれども6話を通して見たときに、「対象はどこに持ってきているんだろうか」などの辛口の意見もありました。留学生の方が登場するビデオなんですけれども、途中の話の中には日本人だけの場面もありまして、「流れはどうなっているんだろうか」という意見もありました。ただ、例えば総合学習でもっと言葉を研究していくときに、きっかけとしては使えるんじゃないかということが、全

体としてはありました。国立国語研究所から依頼なんだよという話をしましたところ、非常に真剣に、普通の授業もこのぐらい聞いてくれればいいんじゃないかと思うぐらい、真剣に受け止めて、それぞれアンケートに答えたりしてくれました。今日も、大体4名の生徒ということだったんですけれども、希望で行ってみたい、話をしてみたいというのがありまして、5名で参りました。ビデオを見れば、それぞれの意見が出ると思います。その内容とビデオの感想は以上でございます。

杉戸 ありがとうございます。この後で御覧いただきますが、ビデオはこういう箱に入っております。普通のVHSで37分です。資料の上のほうに書いておりますように、表題は「相手を理解する一言の背景をみつめる」という副題をつけました。今の馬場先生のお話にもありましたが、海外からの留学生が出てまいります。それでそういういろいろな立場から見た、日本語の言葉の暮らしはどういうものかというところもはいつています。それだけではなくて、日本の中の地域の差、あるいは年齢の差、そういったところで勉強したり、困難になる場合があるんじゃないか。そういった困難は、その言葉の背景としてどんなことがあるだろうということで、外国と日本の言葉の習慣の違いだけではなくて、日本の地域による違い、あるいは年代による言葉の違いといったところも含めて話題にして、相手を理解する、言葉の背景を見つめる、といったこのビデオの目的、ねらいが資料に書いてございます。それからビデオの内容ですが、全部で七つの部分、最初の導入部分で「虹は七色」、世界の人たちがどんなふうに思っているんだろうか、そういったところから問いかけを始めてまいります。そして、先ほどの6階の会場の第1部のほうで、こちらのイライザさん、ハビエルさんから「お手伝いしなくていいですよ」、そういった言葉があいまいだ、というところがでてきました。そういうところも、このビデオでも扱っております。最初に申しましたような、相手を理解する、言葉の背景をみつめるという観点から話題を並べております。では、何はともあれ短時間ですが、御覧ください。

<ビデオ上映>

【ディスカッション】

(配布資料：p. 3～4)

杉戸 実は上のほうに書いてございます、7月の半ばに、先に観てくださって、それを踏まえてアンケートに書いていただきました。37名の回答がございまして、それを集計したものが並んでおります。2枚にわたり、まずは全体について分かりやすい内容でしたでしょうか。ねらいはよく伝わる内容でしたでしょうかという質問から入りまして、具体的な記述がアンケートにありました。最初の二つですね、「分かりやすい内容だったと思う89%」。「ねらいがよく伝わるに内容だった84%」。これはありがたいことなんですけれども、ありがたいということだけしか、私どものほうからは返せません。ところが下のほうですね、「言葉遣いやコミュニケーションについて考える参考になると

思う」というのになると、ちょっと、その辛口の意見がありました。この辺りから伺っていきしたいと思います。27%の生徒さんが、「そうは思わない」と。あるいは次の右側1の(4)ですが、「身近な問題と話題や自分の経験からそうは思わない35%」。この辺りから、具体的に意見を伺いたいと思うんですが。たとえばどうでしょう、北原さん。

生徒(北原) はい。

杉戸 どうでしょうか。

生徒(北原) 海外にいったことがある人となない人の違いとかで、今までの経験したことで考え方が違うと思うので、そうは思わないという結果が少し多く出たと思います。

杉戸 そういいますか。これは海外に行ったことがある人だったら、どちらになる、とかそういうことですか。

生徒(北原) はい。

杉戸 どちらになる、「そう思う」のほうになる？

生徒(北原) はい。

杉戸 何か関連して話してくれませんか。身近な話題や自分も経験した場面、それも今の北原さんの話に含まれますか。そうは思わない、身近でないと感じた場面、例えばどんな場面がありますか。どうぞ遠慮なく言ってください。

生徒(北原) 日本にいただけじゃ、比較できるものがなくて、日本語だけを見ている。外国に行った経験がある子は、日本語と比較できるから、コミュニケーションについて考えたりするという機会ができて、その結果が参考になる。

杉戸 そういいますか。皆さん、外国語、英語コースの皆さんですから、英語を勉強していて、例えば「サンキュー」ありがとうにあたる言葉の使い方で、日本語の「ありがとう」と英語の「サンキュー」とは違うんじゃないかというような、そういうことは、今のビデオと関係が、そんな話はないでしょうか。いきなりこんな話を持ちかけますが。つまり外国に行ったことがなくても、外国語を勉強するという、そういう中で、このビデオが参考になるとか。そういうことがあったと思うようなことは、なかったですか。どうぞ遠慮なく。特になさそうですか。いいですか、はい。じゃあ先にいきましょう。このプリントの4ページのほうにまいります。これで一番私たちがびっくりしたというか、反省しているのは、左上の、不自然な場面やおかしな場面が多かったと。「そう思う」。この場合の「そう思う」は、むしろ批判的な方、それが86%にもなっている。これは事前に約束をしてない質問なんですけれども、どうでしょうか。例えばどんな。はい。

生徒(信國) (第1話)「すいません」というにしても、ケーキ屋のレジのところで、レジの人が「すいません、細かくなりますが」と言うんじゃないかと、出す人が「すいません、大きくなりますが」というふうにいうんじゃないかと思います。やっぱり立場が違うから、こういうふうに……。

杉戸 なるほど。つまりお客さんのほうから「大きな札でごめんなさい」というような。そうですか。私もシナリオを作るのに参加してましたが、そこまでは話題に出てませんでした。他はどうでしょう。失礼な場面、おかしい場面が多かった。いろいろありそうですね。

生徒（北原） お父さんが、「いつも香織がすいません」と言うのは、やはりなんか。「すいません」でも、これは、言葉になっている部分もあるけど、やっぱり「いつもお世話になっています」という言い方のほうが合っていて、何か、「すいません」を無理矢理取り入れないといけないみたいな、そういう感じの内容。

杉戸 それも不自然さですね。分かりました。反省してます。あれも「お世話になっている」ということと、もうちょっと、更に迷惑をかけたり、負担をかけているという、そういうところまでおとうさんの腹の中にあっただとしたら、「すみません」もあり得るんじゃないか、シナリオを考えると、そんな議論をした記憶がありますね。つまり「ありがとう」「すみません」大きく二つに分かれるわけですが、その「すみません」の中にも、いろいろな幅がある。恐らく御覧いただいたときの感想は、御世話になってるくらいは「すみません」じゃないんだろうと。そういうことで今の御意見だと思うんです。迷惑かけているんじゃないかと、ちょっと言い訳がましく言ってますけど。そういう「すいません」にも幅があるということを、議論の材料にしてもらえないかなと、こんなふうにも思いますね。「セリフや解説の言葉遣いは分かりやすかったか」、これは2割の方が「そう思わない」。80点をいただいているので、先へ進みまして、次の大きなあれですね。「あなたの印象に一番強く残っているのはどれですか」、これは初めという、導入部分を含めて七つの話でした。これで特にパーセントが多かったのが、第1話と第3話ですね。それが特に印象的だと言っていたようですが。その辺について、もうちょっと具体的にどんなふうなところが、特に印象深かったのか、いかがでしょうか。第1話、どなたか。北原さん。

生徒（北原） 「すいません」を使う場面が多くて、無理矢理これを使おうとしているので印象に残っている人もいると思うし。

杉戸 そういう理由ですか。

生徒（北原） それと、「すいません」と「ありがとうございます」の使い分けをお父さんが詳しく説明したところが、印象に残っているかなという結果になったんだと思います。

杉戸 そうですね。ありがとうございます。他に第1話については御意見ありますか。リさん、さっき手が上がってましたね。リ・レイカさん。

生徒（リ） 「すみません」の意味は「エキスキューズミー」だと思います。他の意味は、日本に来る前に単語の勉強をしました。「すみません」の意味は「エキスキューズミー」で、そしていつ使うかは、分かりません、お店とか。「すみません」は「ごめ

んなさい」の意味もあります。

杉戸 その場合の話は馬場先生あたりがお選びいただいている話題です。その場合のマレーシアでの「エキュスキューズミー」は、お店に入って、お店の人を呼ぶときに、「エキュスキューズミー」。それと「サンキュー」ですね。このビデオでは「ありがとう」と「すみません」を比べて扱っていますが、ありがとうの意味の「サンキュー」と「すみません」の「エキュスキューズミー」その二つの言葉の使い分けで、今まででりさんが戸惑った、困ったことなどはないですか。

生徒（り） ビデオを見ましたから、分かります。

杉戸 いろいろお話を深めていきたいんですが、第3話のほう、いきましようか。これも79%の方が印象に残っている。第3話というのは、丁寧な言葉はどんなときに、ということですね。これはどうでしょう、例えばどんなところが印象深かったでしょうか。

生徒（信國） この第3話のユニットは、英語訳……の延長であって、私たちにとって最も身近にあるということと、私たちが学校で生活する中でも経験するところが非常に多いと思うので、普段こういう印象に残っています。

杉戸 高校の生活の中で経験しそうなことが多く出てきた。そうですか。たとえばどんなところですか。

生徒（信國） 先輩や先生たちと話すにしても、タメ口で言ったら、そのしゃべり方でしてはいけないし。

杉戸 話しちやいけない。

生徒（信國） はい、いけないと思う。

杉戸 思っている。

生徒（信國） はい。先生たちと話すときもやっぱり敬語は大事だということ。

杉戸 なるほど。このビデオで一つ工夫をしたことは、例えば生徒から先生、あるいは生徒の中でも後輩から先輩、ここでは敬語を使わなくちゃいけない、使うのが普通だっていう、そういうことはもう済んでいるだろう、もう分かっているだろう。その次に考えて欲しいことを出したつもりなんですね。目上の人でも親しければ敬語はいらない、あるいは同じ同級生でも、余り親しく付き合いのない人もいますので、丁寧語くらいは使う。という、そういう場面を選んだんですね。その点はどうですか。

生徒（信國） その点は、やっぱりその人の性格的なことや、人それぞれだと思うんで。

杉戸 人それぞれ。

生徒（信國） 性格的なことが多いと思います。どんなに親しくても目上の人には敬語を使わなくてはならないと思っている人もいるし、知らない同級生の人でも気軽に話しかけられる人もいるから、それはそれぞれだと思います。

杉戸 他の、どうぞ。阪梨さん、いかがですか。

生徒（阪梨） 丁寧な言葉は自分と相手との距離を表すという。実際自分も経験したこと

があるんですけれど。

杉戸 経験がある。

生徒（阪梨） 信國君と一緒に、先輩や先生とか、余り知らない、身近じゃない人には敬語とか丁寧語を使ってしまうことがあります。

杉戸 どうぞ。

生徒（阪梨） やっぱり同級生に対して丁寧語というか、ですますを使ってしかられたんですけど、それ以上の敬語も入っていたと思うんですね。だから何かちょっと、設定に無理があったなという感じがしたんです。やっぱり同級生には、タメ口だろうというのが。やっぱり同級生に限定したほうが。例えば、もう一つの方が食堂のおばさんでしたよね。その方に対してタメ口だったのに、何々さんにつけていたのがちょっと不自然だったなというふうに思いました。仲のいいおばさんだったら、「食堂のおばちゃん」と。そのおばちゃんは、タメ口だったのに。と、細かいところに目がいつてしまって。全体的なところはあまり。設定にちょっと無理があったかなという印象をうけました。

杉戸 他のユニットについて、印象に残ったという方があれば。蛇塚さん。どれでもいいです。

生徒（蛇塚） 他のが「うちのお父さんは」に比べて、他のが残ってない。

杉戸 残ってない。そちらの辛口の。

生徒（蛇塚） 今にして考えてみれば、「しばれる」とかいう使い方は、その方言でしか表現できないみたいになっちゃう。それは結局分かっているんです。それで何か、納得、直接見て納得したから、その分の後の考えるところがないみたいな。だから余り当たり前の、だから何、みたいなところが。

杉戸 頭にきた？

生徒（蛇塚） ……と思います。

杉戸 だから何を言いたいのかと。

生徒（蛇塚） あ、なんか。

杉戸 いやいや。ありがとう。

生徒（蛇塚） これが当たり前で、そうだよな、と言って終わりみたいな感じで、なんか1話3話に関しては、これから広げられる言葉があるから。

杉戸 例えば、鹿本の人に対して言うのは、熊本の鹿本の方言で、自分たちはすごく分かりやすい。一方鹿本を離れて熊本市内へ出てきた場合、あるいは京都、大阪へいったとき、そういうときに、そうしたら、自分たちは方言だと思っていないけれども、よその人には分からなかったということが、きっとあると思うんですね。方言の研究の方で、気付かない方言というところで、一つのテーマになっています。例えばそういうことが、考えてもらえる手がかりにならないのかなと、こんなふうに思いながら、議論してたんですね。私は名古屋の出身だといいましたけれども、私はかなりな年になるまで、机を

二人で持ち上げて運ぶことを「つる」と言っていた。それは全国共通語だと思っていたんです。例えばそういうことですから、今日の第1部のほうで、6階のホールで熊本の方言が出てました。私、実は半分ぐらい分からない。辞書に書いてある意味は勉強して分かっているんですが、気持の分かり方まではやっぱり、出身のところですな。「しばれる」という簡単な形容詞ですけども、動詞かな、極端に寒いとか、痛いように寒いとかということは、辞書に書いてあるんですが、それ以上の何かがあるのかなのかというところの議論が、きっかけとして始まらないのかなと、ちょっと押しつけがましいんですが。他はどうですか。よろしいでしょうか。じゃあ一つ先へいきます。お配りしたビデオには、グラフが載っておりませんが、アンケートではもう少し、選択方式ではなくて、記述式でも意見をもらいました。それで例えばなぜこういう場面を使って、さっきのを作ったのか。この意図が分かりにくいという、そんな意見がけっこうあったんです。一つ一つの場面ですね。何でこの少年がこの画面のようになっているのか、分かりにくい。そんな意見もありました。例えばどんなことですか。リさん。

生徒（リ） あいまいな言葉は難しいです。字幕があるほうが良いと思います。

杉戸 あいまいな言葉、という字幕が。

生徒（リ） いきいき方言も難しいです。

杉戸 あ、そうですか。難しかった。あいまい言葉。^{けんそん}謙遜という言葉をお父さんが使っているところがあって、別のほうで見ていただけると、あれも分かりにくいんじゃないかと。

生徒（リ） 分かります。

杉戸 それは分かる。ああ、そうですか。あいまいが分からなかった。

濱田 外国人から見たら分かりにくい……ですな。

杉戸（第2話）ダイヤモンドダストだけが決まって、人の名前以外はずっと難しかったと思います。他に何か、おかしいこと。知っている方ありましたら。じゃあ別の質問。これは是非聞きたいと思うのは、質問の6ですね。この先、実は国語研究所ではこういうビデオを、今年は高校生の方たちに向けて使ってもらおうと作りました。相手はいろいろ変えながら、しかし毎年作っていかうと思っております。そのことについての希望とか意見ですね。これはどうでしょうか。言葉やコミュニケーションに関するビデオ、そういう範囲のこと、国語研究所ですから、そういう範囲なんですけど、その中でも、例えばどんなビデオが見たいと思いますか。

生徒（信國） それは作る側の目的というか、見てくれている人とか、見せたい人というようなテーマによって違うと思います。中学生とか、海外から来た人たちに見せるなら、友人や人から話しや相談を受けるときに、同じ言葉を使うにしても、例えば「結構です」と言うにしても、感情の込め方で相手のとらえ方や、意味が違ってくるので、その点を聞きながら作品を作っては……。

杉戸 「結構です」，そういうのが分かるように。

生徒（信國） 高校生，日本人の僕たちに勧められても。

馬場 見せたときの感想として，自分たちが見るというよりも，留学生の方に見せたほうが日本語の違いが分かるんじゃないかとか，面接の練習に敬語が使えるんじゃないかとかいうような感想を持ったようなんですけれども。

杉戸 今のビデオですか，今回のビデオがそういう感想。

馬場 はい。だから自分たちが見て，勉強になったというか。

杉戸 どうぞ。

生徒（リ） 日本語の時間に，日本語の学校が見たい。例えばYMC Aとか日本語の勉強のところ。

杉戸 そういうところで，このビデオを見せるといい。なるほど。どうぞ。

馬場 説明されている内容はとても簡単なんです，それを全部日本語で説明してますので，さっきのあいまいにしても，……日本語をしゃべってるんですね。それだと外国人に日本語を教えていますけれども，絶対分かりません。あんなふうに，全部日本語で説明してますよね，だから英語を使いながら，一番易しい日本語で話して，やっとそれが分かってもらえるんですね。だけどその説明自体が，熟語とか漢語がいっぱい出てきて，あれは外国人が見ていても分からない単語が山ほどあるし，文法もとても複雑で，センテンスも長い。センテンスは短く書いてないと分からない。だから，例えば大学生でかなりの日本語が話せる人だったら，これでいいと思うんです。しかしその人であるなら，こんなレベルはもう越えてると思います。「すみません」の使い方とか。

杉戸 おっしゃるとおりだと思います。そしてこれはビデオ作品の制約だと思うんですが，このビデオは外国人の日本語学習者のような，日本の普通科高校に留学している方は別にして，外国の日本語学習者を対象にしていらないんです。文が長いことですか，複雑な単語が多いということ，それは日本の高校生なら分かってもらえそうだという線です。ろえてあるだけのことです。おっしゃるとおりなんです。ですから，その結果，これは初級・中級の日本語学習者にはとても無理な作品だと思います。

馬場 研究か，探求か。

杉戸 国語研究所は昔から初級編，中級編といって，外国人の日本語学習者の人たちに，別のビデオ教材をたくさん作ってますので，それを使っていただくと。こちらのほうは，来年からまた別の作品を作るとして，それをまた，こういう人に見てもらいたいとか，目標を絞って，視聴対象者を絞って作っていくというようなそういうことで考えますけれども。ありがとうございました。

濱田 私も国語ですけどね，なかなかこれを使おうとすると，年間指導計画の3年間の中で，どこにどういうふうに入れるかというのは，難しいなと。

杉戸 時間が窮屈で申し訳ありませんが，イライザさん，ハビエルさん，いかがでしょう

か。見てくださってますよね、ビデオ。で、今日またもう一度見て、どうでしょう、イライザさんから。何か、ここは是非という…。

イライザ まず、軽いコメントですけど、お父さんの役者がとても「むしゃんよか」思いましたけど、でもアメリカ人の女性（4話）が、大根役者で、耐えられなかったと思っていました。（笑い）

杉戸 ああいうのを、「むしゃんよか」っていうんですね。

イライザ むしゃんよか。髪型も。で、あとはちょっと違うコメントですけど、不自然な場面というところで、一つは小さい子供がお母さんに、「なんですいませんと言ったの」（1話）と、多分ずっと生まれたときからそういうふうに聞いていたかもしれないから、聞かないんじゃないかなと思いました。ということは誰かが聞かないと、そのビデオは進まないかもしれない…。

杉戸 そのとおりです。

イライザ でも、このほうが何でもすーっと自然と入るから、中学生・高校生はなぜですかとか、本当にこうなのとか、そういう年代じゃないかなと思います。後は、方言のところ（2話）は、私は北海道には行ったことがないから、とっても面白かった。でも例えば熊本の方言だったら、ただ普通のイントネーションで言ってるのではなくて、少しもうちょっと上と下、「あらあ〜」とか。私はよく方言が分かりませんけれども、そういう北海道のおじさんが、何か普通のイントネーションでただ方言をやってたみたいな感じだった。私は多分ちょっと鈍くて、分からないかも知れませんが、そういう気持、方言はただ言葉の違いだけではなくて、気持とかが入るんじゃないかなと思いました。

杉戸 少しだけ補足しますと、北海道のおじさんですね、あの役者さんは根っからの北海道生まれ育ちの役者さんなんですね。

イライザ あら、そうですか。

杉戸 それで、二人が玄関に入って、「やあやあやあ」

イライザ あ、それはよかったですね。

杉戸 あれはまさしく北海道東北地方の、ああいうときの感動したときに言うんで、是非これを言って欲しいといって、やってもらったんです。製作スタッフの中にも、北海道出身がいましたけれども、あれは自然だなという、そういう評価を手前味噌ですがもらいました。

イライザ あ、そういうところ、終わっちゃいましたけれど、よかったですね。

杉戸 北海道とか、東北の人たち、膝をたたきながら「やあやあやあ」とかいうんですよ。どうもありがとうございました。もうどうぞいいですよ。

イライザ あ、いいですか。

杉戸 はい。

イライザ あの、高校生が「だから何なんですか」ということがありましたので、私はこ

のビデオは、話の始まりのところで使っていたらいいなあと思いますね。研究所の作っている人たちは、これからどういう日本語の考え方とか、どこが……大切とかそういうのは、何かこういう話ができますよとか、そういうパンフレットで詳しく説明してくれたらと思いました。

杉戸 このビデオだけではなくて。

イライザ このビデオを……として、こういう、これからこのビデオを見てこういうお互いに質問したらどうですか、とか興味があったら、こういう面白い本があるとか、だからこれから先の勉強とか考え方のつながりがあったら。

杉戸 ありがとうございます。一つは、今日の資料の2ページに話し合いのために、という、ビデオを話のきっかけにするというので、星印で四つ五つ並べてあります。これは例えば高等学校の生徒さん、あるいは見てくださった人たちで議論をしていただくときの、例えばこんなところからきっかけにしていられないだろうかという、そういう項目を少しだけですけれども、このビデオに付けてある解説書の後ろのほうに、例えばこんなところからいかがですかという、それが一つです。もう一つは、実はこれは13年度の作品でしたが14年度、15年度、16年度、3年間かけて、今日見ていただいた三つの話を、二つずつ選んでアドバンスドコースを作ろう、そういうビデオを作ろうと。「すみません」とかあいまいな言葉とか、方言、そういうったのを組み合わせながら、今回は六つの話で30分でしたけれども、二つの話で30分ぐらい、ちょっと深めたビデオを考えておる状況で、そういうプランをしております。その中で、今イライザさんがおっしゃったような、この次の、話のきっかけの次の段階のヒントも示していけたら、とも考えております。お待たせしました。ハビエルさんどうぞ。

ハビエル ビデオに関して一番、最初一番印象になったのは、韓国人です。……日本語が。……とか……とかいうのがすごくうまくて、ちょっと何かムカついたところがあります。1年だけだったでしょ。僕は8年で、まだそこまでできないのはちょっと。でもビデオとしては、いろんな部分で分かれて、その部分、例えば「すみません」最初のところで、多分一番コンプリクトがあるところかな。「すみません」多分無理矢理してる。でも「すみません」という度に入ってるから、構想は「すみません」と……にできるんだから。あ、なるほどと思ったときには、3年前はうちの父が日本に来た。うちの父は日本で生まれて12歳で日本から去って、アメリカのほうに行って、その後はエクアドルに行きました。それに何年ぶりに帰ってきて、レストランに行きました。レストランに行ったときに、私の友達「おい」とは言わずに、「すみませーん」と呼んだんですよ。すると「何で謝る」その友達は、「いや、普通ですよ」次は、「ちょっとお願いします」日本人から同じことを言われる。でも多分、私がそのときに思ったのは、父は20何年海外に住んでるんだから、そのままの日本語を持ってるから、こっちに来るときに、その日本語はいろんな方法で変わってきているから、それを……スペースがあって、その間が

あるから、だから「なんで謝るの」と言われたときには、「あ、なるほど」と思いました。ただその「すいません」は、「あ、お父さんだ」と思いました。すぐに。発表は、「あいまいな言葉」ですね。あいまいな言葉とか、あと1回くり返すことは、日本語が多いんですね。ぱらぱらとか、「何してるの」「だらだらしてる」。「だらだら」って何？あと、「どうしたの」「昨日たくさん飲んだからゲロゲロになった」何とか何とか、そういうぱらぱらは、イコール雨。ぱらぱら、雨が降ってるね。雨が降ってるという音はない、スペイン語で。ぱらぱら雨が降るということですね。でも日本語はよく使うということは、それはぜひ今後利用したいと思っています。

杉戸 擬音語とか、擬態語とか。ものの音とか様子、「さっと走る」とか、「ぴっと立つ」とかね。これは本当に難しいと聞きますね、外国の方には。

ハビエル ああ、難しいですね。「ぴっと行ってはっと去って」「ぴゅっと、ぱっと、さっと」擬音を入れるのは、面白いなと思いましたがね。日本語の便利さですね。言葉知らなくても、気持だけで伝えるんだから。

杉戸 仲間内では便利だけど。

ハビエル 分からない人たちは。

杉戸 それを分かるような手がかりをつくらなきゃいけない。

ハビエル そのときには、ぴゅっと。非常に……ないんですね。

杉戸 辞書にも書けないですね。レイカさんは、同じようなことないですか。

生徒（リ） はい、あります。「ぼんぽこぼん」とか「どんどんどんどん」とか「ぐるぐるぐる」。

杉戸 どうぞ、カワベさん。

ハビエル あとは、もちろん……ビデオを見て、何だろうと思いましたが、それは確かにそうなんです。日本で生まれ日本で育ち、これはもう分かっているつもりなんですけど、彼女の立場にたつと、彼女はやっと「すみません」の使い方が分かった。ということは、今度外国人が来たときに、お母さんとおばあちゃんが、そういう使い方に「おそまつさま」だとか「大したものじゃないんですね」それはもう今は日常的な使い方をするんですけど、でも若い人たちは、今の時代、新しい外国人がきたら、そのときには説明してあげればいいなと思います。別にそういう意味じゃないよと言ったら、ただ日本の習慣だよと言ってくれたら、その人は、「あっやさしい」とか。

杉戸 例えば、「つまらないものですけども、どうぞ」と言ったら、つまらないものはよこすなど。

ハビエル でもどんどん食べてください。じゃ食べますという、その遠慮。日本人は遠慮することは、僕も遠慮する立場。「いや、もう食べない」「いや、もう飲まない」「じゃあもう触らない」ということだけど、本当は触って欲しい、食べて欲しい、飲んで欲しい。でもそれは誰も説明してくれなかったけれど、誰も食べなければ相手は、「あ、

おいしくなかったんだ」と思われるでしょ。だからそのときにあなたたちがいたら、…
…それは助かりますね。

杉戸 例えばお茶のおかわりなんかを進めるときに、おかわりいかがですかとかいうと、
「ああいやいやもう結構です」と日本人は言うんですけども、実はまだ飲みたくても、
とりあえず、「いやいやもう結構です」と言っておくということがあるんですよ。そ
れを外国の方が見れば、2杯目は絶対「いやいや結構です」と言わなければいけないの
かなと思ってしまうんですけども。実はそれは文化で、そういう言い方になっている
ということを教えてあげればそうなんだというのが分かるというようなことでしょう
ね。さっき、第1部の会場で、ハビエルさん、その例を出されましたよね。「いいです」
本当は食べたかったのに持っていかれちゃったとか。

ハビエル そうそう、ありますね。

杉戸 その場合日本人は「なにもごさいませんが」とか「つまらないものですが」と言わ
ないで、「これ美味しいですよ」「あなたにぴったりですよ」というふうに、変えてい
くという選択肢もあると、これはよく議論があるんですが、その辺についてお二人御意
見はいかがですか。

ハビエル でも日本の文化を、そういう例えば「おそまつさまでした」とか、「たいした
もんじゃない」、それは日本文化の昔からだから、昔から伝えていることだから、それ
は変える必要はない、しかし私たちはそれを理解しなければいけない。が、その理解す
るのに、誰もいないと分からないでしょ。体験しないと分からないから、そういうとき
は難しいですね。だから、ぱっと言って欲しい部分ももちろんあるんだけど、それに変
えるのは、日本人独特の言い方があるから、それでいいと思います。

杉戸 そうですね。ありがとうございます。イライザさん、いかがですか。

イライザ 私も変えなくていいと思います。アメリカでは英語を使っていて、いつもこれ
素晴らしいよといわなくて、たまに、好きな人がいたら、「好きかどうかわからない」
とか、そういう言い方もありますから。日本の優しい言い方、丁寧な言い方、昨日アメ
リカから帰ってきて、飛行機の中のスチュワーデスさんの日本語の使い方と英語の使い
方が、例えば、「フィッシュオアチキン」は英語で、「どちらがいいでしょうか」とか、
とてもですますを使って優しい言い方があって、やはりそういうのを捨てなくてもいい
と思います。無理矢理に。

杉戸 無理矢理。

イライザ はい。

杉戸 ……、どうぞ。

参加者1 ……言われましたですけども、……我々の……それ一つしか理解してない。
ワンダは驚き、心がいっぱいあるから、驚きがいっぱいある……ワンダフル……我々は
ワンダフルといえば……が素晴らしい、それ一つしか覚えていない。だから英語でも日

本語でも同じ……一つの言葉にはいろいろな意味があるということを、お互いに文化を理解するということがあるんじゃないかと、そういうふうに思います。今……さっきから、すごく……。

ハビエル えっと、私は、前に1部で言った通りです。私は日本に来てから、日本の文化を理解しなければいけないと思います。

参加者1 そうです。日本の国が使っている言葉の心情、ニアンスやっぱり覚えてもらう必要がある。我々も外国に行ったらもちろんその国に行ったら、その国に合わそうと思わなければ、ものごとが理解できない。それからさっきからおっしゃるとおり、日本の文化をつぶしてしまって外国に合わせる必要はない。捨てるものは一つもないと思っています。ですから我々もそのようにしなければいけないし、外国の方もちょっときついでしょうけれど、もっと日本文化を、そういういろんなところを理解していただくように、努力していただきたいと私はそう思います。

杉戸 ありがとうございます。ビデオを作った私どもの第6話の下りですね、「多様性をみつめて」と言ってました。今のお話はそういうことで。

参加者1 今後作りたいのは、どういうことが望まれますかという質問なんですが、これについては、共通語と方言、日本語、もちろんだこの国でも方言と共通語があるわけですが、両方の方言の成り立ち、あるいは共通語の成り立ち。それから方言はどのようにして生まれたのか、あるいは共通語はいつ共通語として……、明治の初年には、標準語、今は共通語と言われていますけれども、共通語はどうしても……、それはなぜそういうふうになったのか。日本が外国に追いつくためには、今の方言のままでは、結局国としての力が弱い。ならば共通語をつくって、世界に対抗したらいい、そういう考え方のもとに明治政府は取り組んだと思います。これはあまりにも急なために、英語は……辺りで何百年かかって今の標準英語を作り上げた。日本語は、明治から140年ぐらいしか共通語としてはなっていないわけです。その中であまりにも急に取り上げたものだから、共通語の中に方言のいい表現の方法があるのは、取り残された部分がだいぶあると思います。例えば……。

杉戸 ありがとうございます。申し訳ありません。そろそろ時間ですので、また後ほど。

参加者1 ああ、そうですか。

杉戸 今のお話は、ただ今ちょっと途中で申しました、15年度の作品で、方言を今日の観ていただいた第2話ですね。それを膨らませて、深めて、方言をテーマにして、共通語・標準語も含めた作品を考えています。そういうところで話題にさせていただきました。本当にありがとうございます。すみません、途中で遮りまして。あのう、菅井さんには話を振りません。

菅井 はい。もう。

杉戸 お約束の時間が近づいております。皆さんからの御意見を積極的に伺う時間がなく

なりました。申し訳ありません、お許してください。最後の締めくくりを濱田先生にお願いしたいと思います。

濱田 締めくくりといわれても、私は感想ですが、改めて日本語は難しいなというふうに思いました。私も先ほど申し上げましたように、国語をずーっと教えてきたわけですが、1月からずっとレイカと話をしていた、リ・レイカさんは、さっき紹介があったように、マレーシアからきて、まだ6ヶ月なんですね。レイカ日本語が上手になったなと私は思いました。昨日ちょっと打ち合わせをやったんですけれども、随分上手になって、この難しい日本語を、やっぱり頭いいなというふうに思った次第です。このビデオは、私も高校生対象でということで伺いました。そのときに私は、どういう場面で使うかなということで、国立国語研究所と打ち合わせた段階では、総合的な学習の時間でということでした。そっちのほうも私はいいなと思っていました。私もこれを視聴させていただいて、例えば現在の高校生の科目としては、皆さん方御存じのように、国語Ⅰ、国語Ⅱがあるんですね。もちろん現代国語、古典、ありますけれども、一応基礎になるのは、国語Ⅰ、国語Ⅱ、そしてもう一つは、現在の学習指導要領では、今年までは、現代語と国語表現があるわけです。ところがこの現代語と国語表現は採択している学校が一つもないんです。県下で。特に現代語はもうほとんどないといってもいい。ですから新しい来年からの学習指導では、国語表現Ⅰ、Ⅱがありますけどね。そして国語総合というのだけになります。ここら辺であたるとすると、私はこのビデオはちょっと難しいかなと思っているんです。逆にね、といいますのは、私ももう聞きかじり、もう曲がりかじりですけど、私は言語学が主ではありませんけれども、よそから……ますので、いろいろ……話していると、このビデオは、専門的にはかなりこれは言語学的には深いものをもっているわけですね。ですから、私はこれを見ていて、生徒たち、子供とは話してませんけれども、むしろ教科よりも総合的な学習の時間で、うちの生徒がカバーできるかなと思っているんですが、さーっと調べて行きたいという、興味関心を持っている生徒が出てくるかなと思っている。踏み込んでいけば踏み込んでいくほど、これが難しいということが、生徒に分かるんじゃないかなと。そんな気持ちを持っています。私もいい勉強になりました。ありがとうございました。またいい作品をお作りいただいて、送っていただければというふうに思っております。以上でございます。

杉戸 それでは……させていただきますが、一つだけお返ししたいと思います。このビデオはまだ市販とか、そういう形になっておりませんで、研究所から各都道府県の視聴覚ライブラリーといったところにお配りしております。ですから熊本県について申しますと、熊本市の手取本町の県民交流会館で、熊本県生涯学習通信センターの視聴覚ライブラリーにお送りしてあります。ここから、ここで御覧になってください。あとは御世話になっております鹿本高校にもお送りしました。御不便をおかけしますけれども。以上で、これで長い時間ありがとうございました。最後にやはり濱田校長先生、馬場先生は

じめ，生徒諸君，どうもありがとうございました。イライザさんとハビエルさんは，第1部，第2部続けて御世話になりました。お疲れさまでした。ありがとうございました。

＜第2部（2）終了＞